

## 進捗状況の概要【1ページ】

大阪大学（以下「本学」という。）は、スーパーグローバル大学創成支援事業の構想（以下「本構想」という。）の目的に従い、教育改革・研究推進・国際化・多様化・ガバナンス改革を着実に進めてきた。

## 【概要】

## (1) 「世界適塾大学院」構想による教育の抜本的改革と異分野統合の推進

大学院教育改革では、「世界適塾大学院」の設置構想を平成27年8月にまとめた。一方、同時期に文部科学省から、産業界等とも連携し、社会変革を促すことができる高度専門人材の育成を主眼とする「卓越大学院構想」が新たな政策として打ち出された。本学では、こうした政策の流れに対応し、「世界適塾大学院構想」を「卓越大学院構想」の活用も含め、大学院教育の抜本的改革を図るために、平成28年6月に「大阪大学の改革の方向性」をまとめ、全学的な大学院教育改革を進めている。「世界適塾大学院」は、当初案の一研究科の設置構想ではなく、より大規模かつ全学的な改革に発展させることとし、平成30年度に「国際共創大学院構想」を実現する方向で検討を進めている。

また、学際融合教育では、外国語学部を有する総合大学としての強みを生かした「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」を人文社会科学系の学部が連携し、平成27年度より開始した。

## (2) 優秀なグローバル人材の確保と教育実施体制の世界標準化

① 教育の質の向上とグローバル化を加速させるため、新学事暦を平成29年度から導入した。導入に当たっては、各部局の教育効果に応じた多様な授業運営を可能とするため、当初案の3学期制ではなく、「4学期制」とした。

さらに、科目の体系的ナンバリングの導入や、国際的な学生調査（SERU）を日本の大学で最初に実施する等、国際通用性のある教育の質保証に向けた整備を進めた。

② 新たな入試制度の整備を進め、国際バカロレアやTOEFL等の外部試験を出願要件や評価項目に取り入れて多面的・総合的評価を行うAO・推薦入試（世界適塾入試）を平成29年度入学者選抜から全学部で開始し、平成29年4月に118名が入学した。

また、グローバルアドミッションズオフィス（GAO）を設置し、「海外在住私費外国人留学生特別入試」を開始した（平成26年度～平成29年度計28名が入学）。なお、GAOは、平成28年度に入試制度改革や入学後の教育改革を担当する高等教育・入試研究開発センターへと発展・改組を行った。

③ 海外の有力大学等との国際ジョイントラボの形成は、平成26年度22拠点から平成28年度56拠点到大幅に増加し、加えて、クロス・アポイントメント制度の活用により、外国籍教員を増員した（平成26年度134名から平成29年5月現在227名）。

④ FrontierLab@OsakaUやMaple等の短期留学プログラムやサマープログラム等、国際通用性のあるカリキュラムを拡充・発展させた。また、英語による授業のみで学位を取得できるコースの増設を進めた（平成26年度の16コースから平成29年5月現在：38コース）。

## (3) 機能強化を伴う横断的組織体制の確立

「未来戦略機構」は、学内の多様な分野の知的資源を戦略的・超領域的につなぎ、「学問の新基軸」の形成につながるインキュベーション機能を果たしてきた。本構想では、その機能をさらに発展させるため、世界トップレベルの研究拠点を形成する「世界最先端研究機構（平成29年4月設置）」と、さらなる異分野融合の高みを目指す「先導的学際研究機構（平成29年1月設置）」に改編した。

また、全学教育推進機構と教育学習支援センターの統合に加え、教育・学修活動に係る抜本的な改革を企画立案し実行する新たな教学マネジメントの拠点として、「教育室」を平成27年度に設置した。

さらに、「国際戦略推進室」と「グローバルコラボレーションセンター」を統合し、教育・研究の世界展開や国際貢献等を支援する組織として、平成28年度に「グローバルイニシアティブ・センター」へと改組した。これらの教育研究面における横断的組織体制の確立により、本構想を実現する体制を強化した。

## (4) 教育研究の戦略的な国際展開—ブランディングや情報発信の積極展開—

4つの海外拠点（欧州、北米、ASEAN、東アジア）の活動範囲を「点から面」「都市から地域」に広げ、国際展開を強化した。

また、平成26年12月に西日本唯一の拠点となる「カリフォルニア大学オフィス（UC/UCEAP大阪オフィス）」を本学キャンパス内に開設し、クロス・アポイントメント制度を活用した外国人研究者の採用、外国人留学生の受入れ・日本人学生の派遣を活発化した。平成27年度には、環太平洋大学協会（APRU）第19回年次学長会議を本学がホスト校として大阪で開催した。

さらに、新規海外展開戦略の一環として、「大阪大学ASEANキャンパス」、平成33年度開学のOUグローバルキャンパスでの「Japanese Studies」の拠点を構想し、その準備に着手した。

## 特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

## (1) グローバル化

## ①カリフォルニア大学（UC/UCEAP）大阪オフィス 設置

平成 26 年 12 月のカリフォルニア大学（UC/UCEAP）大阪オフィス設置を契機に「FrontierLab@OsakaU Summer Program」等の短期サマープログラムや、既設の研究体験プログラム「FrontierLab@OsakaU」の文系版「Frontier Human Science」等を開発し、これまで新たに 137 名の留学生を受け入れた。

また、同大からクロス・アポイントメント制度の活用等により外国人教員を採用し、カリフォルニア大学方式の英語によるグループ討論型のインタラクティブな演習型特別講義の開催等を通して、海外留学等の自己啓発を促進した。

## ②マルチリンガル・エキスパート養成プログラム

外国語学部の学生が他の人文社会科学系学部の教育課程を履修する副専攻型プログラム「マルチリンガル・エキスパート養成プログラム」を平成 27 年度から開講し、63 名が履修した。

併せて、同プログラムの一環として学会等でのアカデミックな英語発表能力強化のため、ネイティブ講師によるプレゼンテーションの個人指導を行う Academic English Support Desk プログラムを実施し、延べ 919 名が利用した。

## ③「国際共同研究促進プログラム（国際ジョイントラボ）」の推進

海外の有力大学等との国際ジョイントラボを積極的に推進し、平成 26 年度 22 拠点から平成 28 年度 56 拠点と 2 倍以上に増加した。

## ④ダブル・ディグリー・プログラム及び開設科目の英語化

大学院では、ダブル・ディグリー・プログラム数を大幅に増やした。それと同時に開設科目の英語化も積極的に進めており、特に基礎工学研究科では、開設科目の英語化は全科目数の 65%に達した。

## (2) 教育改革・入試制度改革

① 教育システムの国際通用性の観点から、全学的な教育改善効果等の調査を実施し、留学の促進や主体的学習の確立による教育の質向上を目指した「新学事暦（4 学期制）」を平成 29 年度から導入した。

② 科目ナンバリングについては、平成 29 年度から全開講授業科目で導入した。

また、シラバスの英語化については、当初の目標を上回る約 60%を達成している。

③ 授業の質向上と大学院学生の教育指導能力の涵養のため、従来の TA 制度を見直し、TA（ティーチング・アシスタント）に加え、教育企画・展開能力の育成を図る TF（ティーチング・フェロー）を平成 29 年度から導入した。

④ 入試制度改革として、一般選抜後期日程の募集を停止し、新たに志願者を多面的・総合的に評価する「AO・推薦入試（世界適塾入試）」を平成 29 年度から全学部で実施し、初年度は 332 名が受験し 118 名が入学した。

## (3) 組織・体制改革

① 全学で取り組むべき横断的な教育・研究の機動的マネジメントと総長のリーダーシップ発揮のための環境整備を目的に平成 24 年度に設置した「未来戦略機構」においてインキュベートした部局横断・異分野融合研究の 4 つの研究部門については、平成 28 年度に設置した「先導的学際研究機構」において学内資源を戦略的に投資し、世界最先端の研究領域への発展を目指すこととした。

併せて、博士課程教育リーディングプログラムとして採択された 5 つの教育部門については、今後、文理融合・学際領域・新領域の学位プログラム「国際共創大学院構想（卓越大学院構想）」として展開することとした。

② 本学が他大学に先駆けて導入したクロス・アポイントメント制度の活用により、優秀な外国人研究者（外国籍教員）を多数採用した（平成 26 年度 134 名から平成 29 年 5 月現在 227 名と着実に増加）。

③ 平成 25 年度にカリフォルニア大学バークレー校の呼びかけで始まった世界の研究大学コンソーシアムに日本の大学として初めて加盟し、全学生を対象とした「SERU (Student Experience in the Research University: 研究大学に特化した国際的學生調査)」を実施し、世界トップレベルの大学のデータをベンチマークとして、学生の学習状況、学習成果の定着状況等を収集・分析している。

このほか、IRer (Institutional Researcher) による入学時、卒業時及び卒業後アンケートを行い、本学学生の学びに関する調査データの分析・公表等を行った。